



【ご進級・ご入園おめでとうございます！】

お子様のご進級、ご入園おめでとうございます！今年は寒い3月でしたね。園のミモザやアーモンドは1か月以上つばみのまま咲ぐのを待っててくれました。始業礼拝、入園式を前に満開となり進級、入園した子ども達を迎えてくれました。色とりどりの花々に迎えられた親子始業礼拝、春休みは短いので2週間程度ですが進級した子ども達は身長がグッと伸びていたり顔つきがしっかりしたり、と成長を感じました。

また今年度は少学校が始まっていなかったため、沢山の小学生が参加してくれ最後列にのらんで座っていましたが、暗唱聖句「ひかりの子として歩みなさい」をしっかりと唱え、また讃美歌「ひかりひかり」をちょっと恥ずかしそうに歌ってくれる姿、本当にうれしかったです。また来てね！

【2日間の年中長保育は…！】

始業礼拝後、7日と8日は年中長児保育を行いました。私たちはこの2日間をととても大事に考えています。

新しいクラス、新しい担任の先生、子ども達なりに進級への期待や不安を胸に登園してきます。そのスタートに丁寧に寄り添い、また「久しぶりの幼稚園だったけど、やっぱり楽しかったー！」という2日間にしたいと願い、スタッフも様々な遊びの準備をして臨みました。不思議な事に始業礼拝を含め3日間で子ども達の表情がグーンと変わっていきます。それは子ども達自身に「大きくなった」という意識があるからでしょう。異年齢混合、縦割りの保育では身近に「こうなりたい」「次は〇〇ちゃんのようにになる」という具体的な「モデル」がいます。進級した年中さん、年長さんは「自分は〇〇ちゃんのようになった」と実感しているのでしょ

う。その自覚が子ども達を成長させてくれるのですね。

7日にはさっそく進級して最初の「年長あつまり」「年中あつまり」(年齢ごとの活動をこのように呼んでいます。)がありました。

「年長さんは遊戯室に集まってね」というアナウンスに誇らしげな顔の新年長さん。「遊戯室」というだけで「いよいよだ」と感じているようでしたよ。

「年長あつまり」では年長としての「役割」についての相談がありました。そうです、年長さんは園生活を「運営」する役目がたくさん!

「前の年長さんて、どんな事してくれていたっけ?」という質問に「ベル当番!」「KMT!」と次々に答える子ども達。憧れの役割を担う喜びにあふれていました。これらの当番、どのような役割かご存知ですか?「KMT」は何の略?ぜひ子ども達に聞いてみてくださいね!

一方の「年中あつまり」では子ども達が「リズムやりたーい!」と強い要望が!担当の保育者達はその声を聞いて予定していたゲーム等から「リズム」に変更!身体を思いっきり動かしていましたよ!子ども達自身の気持ちがあったからか、みんなとても張り切って参加、楽しんでたとのこと。「やりたい!」という子ども達も、それを聞いて臨機応変にプログラムを変更するスタッフも素敵!これからが楽しみです!

【泣いてもいいよ、年少さん!】

入園式に続き、10日から年少さんの保育も始まりました。わけもわからず(笑)お迎えに来てくれた先生や年長さんに連れられてクラスへむかう姿、坂道の途中から「いやだよー」と泣いている姿などなど…年少さんとしてご入園の子ども達は、はじめておうちの人と離れ社会生活をはじめるわけですから心細くなったり悲しくなっても当たり前です。どうぞ、その気持ちを否定したり無理に頑張らせず、おうちの方自身も焦らず、温かく見守りつつ送り出してあげましょう。

年少さんに進級するにじ組さんも新しい環境、新しい生活になります。

(元気で行ってたのに戸惑っているみたい…)という事があるかもしれません。

(早く慣れて元気よく遊んでほしい)と思うのも親としては当然ですが、大人でも新しい環境に慣れるのには時間がかかるものです。「幼稚園が楽しくなる日はきっとくる」と信じて待ちましょう。とはいえ、心配も尽きないものです。どんな小さな事でもスタッフにお聞きください。子ども達の成長を分かち合い喜び合うために、園ではこの「こどもニュース」を発行しています。子ども達の遊びの様子、保育者の想いなど「幼稚園の今!」を載せ随時発行していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

キリスト教のこの言葉ってなあに？

『おいのり』ってなあに？

——神さまとお話することです。



神さまは目には見えないので目を閉じ、手では触れることができないので手を組みます。そして「かみさま」と声を掛けると、神さまはその言葉を聞いてくださいます。嬉しいことも悲しいことも、友達のこと神さまにお話して聞いていただくことがお祈りです。「ありがとう」と感謝のお祈りをすることもあります。

幼稚園では、食事の前と降園前のクラスの集まりの中、そして水曜日の礼拝でお祈りをしていますが、（神さまにお話したいな）と思ったら、いつでもどこでもどんな時でもできるのがお祈りです。

『アーメン』ってなあに？

——お祈りの最後に言う言葉です。



ヘブライ語で「真実に」「確かに」という意味があります。「今お祈りしたことは本当です」「全くその通りです」とみんなで心を合わせて言います。

『けんきん』ってなあに？

——神さまの恵みに感謝して、

私たちの気持ちをあらわして献げるものです。

今日はいいお天気、気持ちがいいよ。神さま、太陽を造ってくださってありがとう。

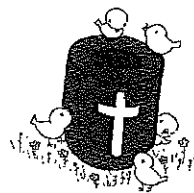
きれいな花を咲かせてくれてありがとう

友だちといっぱい遊んだよ ありがとう

おいしい食べ物をありがとう

おとうさん おかあさんをありがとう

私を造ってくださって、ありがとう



私たちの周りにあるたくさんの「ありがとう」を一つひとつ数えて、それを献金という形であらわし、広い世界のどこかで苦しんでいる人の為にお役に立てたら……と考えます。

金額ではなく、喜んで献げる気持ち、心を込めて神さまの御用の為に使っていただくとする気持ち、そんな心が子どもたちの中に育ってほしいと願っています。